



AAR が支援する南スーダン難民の男子生徒、マレッシュ・サミュエル・ターバンさん。下半身に障がいがあり歩行に困難があります。学生ながら、地域の障がい担当リーダーとしても活動しています。右は AAR 駐在員の藤田綾（2020 年 2 月、ウガンダ）

認定 NPO 法人 難民を助ける会 2019 年度 年次報告書 簡易版

ANNUAL REPORT 2019/04 ~ 2020/03

AAR Japan [難民を助ける会] とは



インドシナ難民に支援物資を手渡しする相馬雪香
AAR 初代会長

紛争や災害などの困難に直面した人々へ、「困ったときはお互いさま」の精神で直ちに支援を届けるとともに、誰もが生命や生活を脅かされることのない社会の実現を目指した活動をしています。

1979年にインドシナ難民支援を目的に日本で発足し、以来、活動地域や分野を広げながら、これまで65を超える国・地域で支援を展開。現在は16カ国で活動しています。

活動の5本柱

AAR Japan [難民を助ける会] は、「緊急支援」「障がい者支援」「地雷・不発弾対策」「感染症対策」「啓発（国際理解教育）」を5本の柱に活動しています。

緊急支援

災害や紛争が起こった際に、難民や帰還民、被災者への緊急支援を行います。

※AARはジャパン・プラットフォーム^{*}の参加団体です。

障がい者支援

地雷被害者などの障がい者のための車いす製造・配付や、職業訓練、理学療法、インクルーシブ教育^{*}、災害時支援を実施しています。

地雷・不発弾対策

地雷や、クラスター爆弾などの不発弾の被害にあわな
いたための教育や、被害者支援、除去支援を行っています。

感染症対策

衛生環境の整備や啓発活動、マイセトーマ（菌腫）や新
型コロナウイルスなどの感染症対策を行っています。

啓発（国際理解教育）

国内ではチャリティコンサートなどのイベントや報告
会の開催、訪問学習の受け入れ、講演などの国際理解
教育や、政策提言に取り組んでいます。

※ジャパン・プラットフォーム（JPF）は、NGO、経済界、政府が対等なパートナーシップの下、三者一体となり、それぞれの特性・資源を生かし協力・連携して、難民発生時・自然災害時の緊急援助をより効率的かつ迅速に行うしくみを持つ中間支援団体です。

※インクルーシブ教育（IE: Inclusive Education）とは、障がいの有無に関わらず、すべての子どもが、暮らしている地域とともに学ぶことです。実現のためには、教室や教育システムなどさまざまな視点から、一人ひとりの能力やニーズに対応する学習環境を整える必要があります。

数字で見る 1 年

[ご寄付]

正会員 **161** 名、協力会員 **630** 名、マンスリーサポーター **1,681** 名、**6,366** の支援者さまよりのべ **29,684** 件のご寄付

[活動国・事業数]

世界 **15** カ国、**36** の支援事業で **30** 万 **6,342** 人に支援（直接支援を届けた人数）

[資金]

当期支出合計 **17** 億 **2,864** 万 **0,591** 円（繰越金を除く）

[役職員・ボランティア]

役員 **24** 名（無償）、職員 **400** 名（東京事務局 **52** 名、佐賀事務所 **2** 名、海外駐在員 **28** 名、現地職員 **318** 名）、約 **350** 名のボランティア（日本国内）

（2020 年 4 月現在）

ごあいさつ

AAR Japan [難民を助ける会] の 2019 年度年次報告書をお届けいたします。2019 年度は日本を含む 15 カ国で 36 事業を実施し、困難な立場にある 30 万 6,342 人の方々に支援を直接届けることができました。これは多くの方々の共感とご寄付、助成金など多大なご支援の賜物と、心より御礼申し上げます。

2019 年は元号が平成から令和に変わり、新たな時代の到来に国全体の高揚感と期待の高まりが連日報道されました。他方で 8 月に九州北部で豪雨が発生、続く 9 月に台風 15 号、10 月には台風 19 号が相次いで上陸し、東海から東北地方の広範囲で甚大な被害をもたらしました。そして年が明けた頃から新型コロナウイルスの蔓延により、日本のみならず世界全体が大きな脅威にさらされています。

AAR はいずれの災害においても発生直後、被災地に緊急支援チームを派遣し、活動を開始いたしました。また、新型コロナウイルス対策では、3 月下旬から調査を開始し、直後から障がいとともに生き抜いている方々のために、また、紛争や災害で家を追われた難民の方々のために、国内外で支援を実施しております。皆さまも不安な日々を過ごされていることと拝察いたしますが、そのような中であっても、多くの皆さまからご寄付をお寄せいただきました。皆さまへの感謝の思いとともに、その重みを肝に銘じながら役職員一同、支援にあたっています。また、ご寄付にはたくさんの応援のメッセージを添えていただき、一同心温まるお言葉に励まされております。

AAR は昨年 11 月 24 日に創立 40 周年を迎えました。皆さまお一人おひとりのご支援が AAR の活動を可能にし、それが困難な状況にある方々の未来を変えるきっかけとなっています。40 年前の初心、原点に立ち戻りつつ、ご支援くださる皆さまと現場をつなぎ、AAR でなければできない支援を心掛け、一人でも多くの方々へ支援をお届けできるよう一層邁進してまいります。

あらためまして皆さまの多大なご支援に御礼申し上げますとともに、
皆さまのご健勝を心から祈念いたします。

AAR Japan [難民を助ける会]

理事長 長 有紀枝





難民支援

18万 8,756 人

※支援を直接届けた人数

紛争や迫害により、住んでいた土地を離れて避難生活を送る難民／国内避難民、避難先での定住を決めた元難民への支援を6カ国で実施しました。

●シリア難民（シリア・トルコ）

10万 9,172 人

シリア国内では、新たに逃れてくる国内避難民が多く、支援の行き届いていない地域において、食糧パッケージ 17,673 箱を配付しました。トルコに暮らすシリア難民に対しては、行政や医療、教育などの分野で必要とする支援を受けるための情報提供などを行いました。特に、脆弱性の高い難民に対しては、物資配付やリハビリなど、個々の状況に応じた支援を提供しました。また、難民と地域住民のコミュニティ構築を目的とした施設の運営を継続しました。



●ロヒンギャ難民（バングラデシュ）

3万 4,228 人

イスラム系少数派であるロヒンギャ難民（ミャンマー避難民）が居住する避難民キャンプにおいて、水衛生施設の維持管理を避難民が主体的・持続的に行えるように体制を構築しました。また、避難民キャンプ内で人身売買や暴力などのリスクに曝されやすい女性や子どもたちが、安心して過ごせる施設の運営を継続しました。それぞれの施設で、女性には裁縫や手芸のワークセラピー、子どもには四則演算や簡単な英語の基礎学習の講座などを実施しました。



●南スーダン難民など（ウガンダ・ケニア）

4万 3,158 人

ウガンダでは、難民居住地の初等教育校で、校庭の整備や教室の建設、机やいすを提供し、学習環境の整備を行いました。また、クラブ活動の運営、進路指導や職業体験などを実施し、生徒の学習意欲を促進しました。さらに、女子生徒や障がい児の就学促進のため、啓発活動や研修などを行いました。ケニアでは、難民キャンプの中等教育校において、教室の建設、机・いすの提供、トイレの設置などを行い、学習環境を整備しました。また、青少年がキャンプで生きていく中で直面するさまざまな困難に対処する力（ライフスキル）を身に付けられるよう、教員の研修などを行いました。さらに、難民居住地に建設したコミュニティセンターの運営を支援しました。



●元アンゴラ難民など（ザンビア）

2,198 人

ザンビアでの定住を選んだ元難民（アンゴラ人やルワンダ人）に対し、農業を通じた生計支援を行いました。グループでの農業資機材の管理や定例会の実施などを通じ、コミュニティ作りも促進しました。





国内災害 被災者支援

1 万 5,852 人

※支援を直接届けた人数

東日本大震災、九州北部豪雨、西日本豪雨、北海道胆振東部地震の被災地支援を継続したほか、九州北部大雨、台風 15 号・19 号の被災者緊急支援を実施しました。

●東日本大震災（2011 年 3 月）

7,100 人

岩手県、宮城県、福島県の障がい福祉施設のものづくりを支援するため、機材提供や新メニューの開発、販路開拓などを行いました。また、同 3 県で被災され、仮設住宅や公営住宅に暮らす高齢の方々の健康維持や孤立防止、交流促進のため、マッサージや傾聴活動、お茶会、手芸教室などのイベントを計 86 回開催しました。さらに、福島県浜通りに住む親子を対象に宿泊保養プログラムを開催しました。



●九州北部豪雨（2017 年 7 月）

1,500 人

被災地域で活動する地元の支援団体の持続的な運営体制の構築を支援しました。仮設住宅から退去を求められた世帯への支援や、被災した子どもを支える団体を支援しました。



※2020 年 3 月終了

●西日本豪雨（2018 年 7 月）

237 人

岡山県と愛媛県において、被災した障がい者の生活の場となる福祉施設と、支援の届きにくい方々の生活環境の改善を支援しました。



※2020 年 3 月終了

●北海道胆振東部地震（2018 年 9 月）

250 人

北海道胆振東部地震で被災した 2 カ所のグループホームの移転と、作業所設備の復旧を支援しました。



※2020 年 3 月終了

●九州北部大雨（2019 年 8 月）

485 人

発災直後より、佐賀県で被災状況の調査を開始し、避難所や障がい者施設などで緊急支援物資を配付しました。また、清掃ボランティアの拠点となる施設へ、掃除用具などを提供しました。



●台風 15 号・19 号（2019 年 9 月）

6,280 人

台風 15 号では、千葉県で被災状況の調査を実施し、緊急支援物資を配付しました。また、障がい福祉施設に什器備品などを提供しました。台風 19 号では、発災直後より避難所で炊き出しを実施。加えて、被災した認定こども園や障がい福祉施設に対し、施設の修繕や什器備品、車両の提供などを行いました。





地雷・不発弾対策

8万 1,403 人

※支援を直接届けた人数

地雷やクラスター爆弾などの不発弾の危険から身を守るための地雷回避教育、被害者支援、地雷除去支援などを行っています。

●アフガニスタン

5万 8,592 人

カブール県とバルワーン県において、地雷回避教育の地域指導員を育成するとともに、講習会を計 1,533 回実施。地雷、不発弾、即席爆発装置 (IED) の危険性や被害の回避方法を伝えました。また、IED を回避するためのメッセージを込めたテレビ番組を制作し、国営テレビで放送しました。バグラン県では、イギリスの地雷除去 NGO「ヘイロートラスト」と協力し、テニスコート 157 面分の土地から地雷を除去し、安全を確保しました。

●スーダン

195 人

カッサラ州、青ナイル州、南コルドファン州の地雷被害者を含む障がい者に義肢提供や生計支援、心のケアを実施しました。また、地雷回避教育活動を実施する現地 NGO に、教材作成のノウハウを提供しました。



●ウガンダ

16 人

ウガンダ北部で地雷・不発弾被害者を対象に、起業のためのビジネススキル研修を実施し、生計支援を行いました。起業に必要な資機材を提供、研修参加者は小規模なビジネスを開始しました。また、地雷・不発弾被害者のニーズを把握するため、ウガンダ北部にて調査を実施しました。



●シリア

2万 2,600 人

国内避難民 (IDP) および受け入れ地域の住民を対象に、地雷や不発弾などの爆発物による事故や空爆の被害にあう危険から身を守るためのリスク回避教育を 1,415 回実施し、22,471 人が参加しました。また、地雷などの爆発物の被害者を含む障がい者のいる 129 世帯に対し、補助具やリハビリサービスを提供しました。



障がい者支援

8,297 人

※支援を直接届けた人数

障がいのある方々の経済的・精神的・社会的自立を支援する活動を通じて「障がいがあってもなくても、ともに支えあうことのできる」社会の実現を目指しています。

●ミャンマー 2,090 人

ヤンゴン市では、職業訓練校を運営し、洋裁・理容美容・コンピューターの職業訓練コースを実施しているほか、障がいのある子どもたちに、就学支援やリハビリテーションを提供しています。カレン州では、障がいのある方の暮らしを地域で支える、地域に根差したリハビリテーション事業、補助具の提供、医療機関の照会などを行いました。



●ラオス 201 人

障がい者の収入向上のため、ウドムサイ県およびサヤブリー県で障がい当事者とその家族に、キノコやナマズの育て方を伝え、収穫後に自分で販売し、収入を得ていけるように研修を実施しました。また、必要な資材も提供しました。



●タジキスタン 4,467 人

誰もが学べる教育環境を整えるため、ヒッサール市の小学校で、施設のバリアフリー化、学習支援室の設置、障がいのある児童用の教材や補助具などを提供しました。また、教員や地域の医療関係者向けにインクルーシブ教育 (IE) 研修や手話研修、指導者養成研修を開催し、IEを実践する人材を育成しました。加えて、地域や学校における啓発活動や保護者会を定期的に開催し、事業地における IE の推進および定着を図りました。



●カンボジア 1,539 人

カンダール州の小・中学校において、障がい児が学習しやすい環境を整えるため、学校の環境整備や教員への研修、地域での啓発活動などを通じ、学校や地域が主体となったインクルーシブ教育を推進しています。また、2006 年に AAR から独立した車いす工房を通じて、車いすの製造・配付を行いました。





感染症対策・水衛生・その他

1 万 1,118 人

※支援を直接届けた人数

不衛生な環境や医療施設の不足によって、下痢や感染
症で命を落とす状況を改善するために、衛生環境整備
などの活動を実施しています。

●水衛生（パキスタン）

6,248 人

パキスタンでは、衛生環境の改善
により児童の就学・出席率を上げ
るため、女子小学校およびアフガ
ニスタン難民の小学校において、
手洗い場・浄水器・トイレの設置
とともに、各学校の教師・保護者
に対して衛生教育研修を実施しま
した。また、整備した衛生施設を
維持管理するための体制を構築し
ました。



●新型コロナウイルス対策

新型コロナウイルス（COVID-19）は、
日本を含む AAR の多くの事業地
において甚大な影響を及ぼしてい
ます。緊急支援のためのニーズ調査や、
衛生用品や食料の配付、感染拡大
予防のための啓発活動などを実施
しています。



●感染症対策（スーダン）

1,404 人

マイセトーマ（特定の菌が皮膚組織
を破壊していく感染症）が蔓延する
地域で、手術チームの派遣、および
患者や住民に対する啓発活動を実施。
啓発教材の配付や啓発ワークショッ
プ、ラジオ放送を通して、マイセト
ーマの感染や重症化を予防しました。



※2020 年 1 月終了

●保健事業（ラオス）

2,260 人

ポンサリー県の妊産婦や子どもの健
康状態改善のため、コミュニティヘル
スワーカーへの母子保健活動に関
する指導などを行いました。



※2019 年 9 月終了

●アフガニスタン市民社会の能力強化

1,206 人

アフガニスタンの市民社会組織に対
し、人道支援の基礎知識などの研修
を行い、組織の実践的能力を強化し
ました。



国内での活動

AAR が取り組む課題への理解を促すため、国内でもさまざまな活動を実施しています。

●イベント開催 18回 962人

AAR は 2019 年 11 月に創立 40 周年を迎えました。昨年度はこれを記念した行事を複数開催しました。6 月には「40 周年の集い」と題した、会の 40 年の歩みと感謝を伝えるイベント、11 月にはインドシナ難民受け入れの 40 年を振り返るシンポジウムと元難民支援生による座談会、これまでの関係者による同窓会を開催しました。



●メディア掲載 143回

AAR の活動や職員が、新聞・テレビ・雑誌などで紹介・報道されました。

●国際会議 5 分野に参加

難民支援、地雷対策、障がい者支援、アフリカ開発支援、キラーロボット反対キャンペーンの 5 分野で国際会議に参加しました。現場で活動する国際 NGO の立場から、経験および知見の共有や発信を行いました。



●国際理解教育 70回

「国際理解教育サポートプログラム」に力を入れ、東京事務局および佐賀事務所で、中高生の訪問学習の受け入れ、出張講演などを計 70 回実施。AAR の活動や世界の問題についてお話ししました。



●在日難民支援など

日本国内で生活する難民や外国人への学習支援や生活支援を、姉妹団体「さぼうと 21」と協力して実施しています。

※AAR は、1979 年の創立以降、海外と国内の支援活動を平行して実施していましたが、1992 年に社会福祉法人さぼうと 21 を設立し、在日難民／外国人への支援活動は同団体に移行しました。

2019 年度 収入・支出内訳

2019 年 4 月～2020 年 3 月

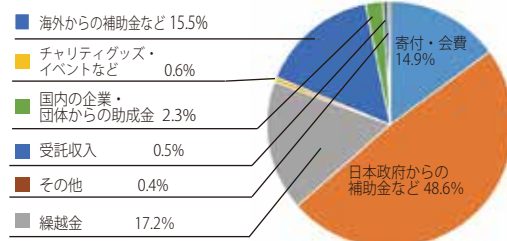
収入 2,069,650,497 円

寄付・会費	309,004,638 円
日本政府からの補助金など	1,005,991,309 円
国内の企業・団体からの助成金	48,418,568 円
海外からの補助金など	320,109,395 円
受託収入	10,988,128 円
チャリティグッズ・イベントなど	12,740,638 円
その他	7,527,137 円
前期繰越金 ※	354,870,684 円

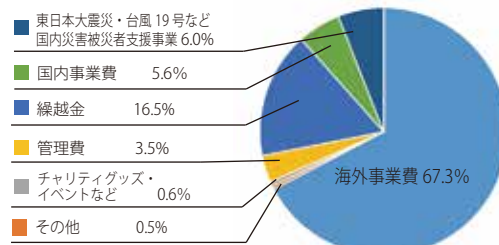
支出 2,069,650,497 円

海外事業費	1,393,580,926 円
東日本大震災・九州北部豪雨・台風 19 号など国内災害被災者支援事業	123,682,478 円
国内事業費（被災者支援事業を除く）	116,719,005 円
チャリティグッズ・イベントなど	11,981,394 円
管理費	73,247,819 円
その他	9,428,969 円
次期繰越金 ※	341,009,906 円

収入 2,069,650,497 円



支出 2,069,650,497 円



※活用期間が年度をまたいでいる助成金・補助金で、既に使途の決まっている資金が含まれます。

ご寄付、ご支援をいただいた団体、企業（一部）

法人サポーター

NSR Nihon System Research

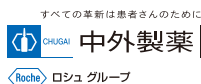
株式会社エヌエスアール



MS&AD インシュアランスグループ
ホールディングス株式会社



株式会社高野



中外製薬株式会社



株式会社ミリオンインターナショナル



リタウィルコンサルティング株式会社

☒ ユースキン製薬株式会社

ユースキン製薬株式会社

計 30 万円以上のご寄付・ご協力、および物品のご寄贈をくださった団体・企業

特定非営利活動法人アースエイドソサエティ

一般社団法人あおい福祉 A I 研究所

一般社団法人 アミチエ ソン フロンティアール

インターナショナル ジャパン

公益財団法人イオンワンパーセントクラブ

株式会社エヌエスアール

MHD モエ ヘネシー ディアジオ株式会社

株式会社オートバックスセブン

株式会社ガイア

NPO 越谷市タップダンスクラブ

三和パッキング工業株式会社

一般社団法人シェア基金

崇城大学

大和ハウス工業株式会社

谷・阿部特許事務所

デルタ航空会社

東京山王ロータリークラブ

東京シティ日本橋ロータリークラブ

東京日本橋西ロータリークラブ

東京日本橋東ロータリークラブ

東京日本橋ロータリークラブ

株式会社虎屋

公益財団法人日本発達障害連盟

日本ロレックス株式会社

公益財団法人野村生涯教育センター

生活協同組合パルシステム東京

日野工業高等学園

ファースト・パシフィック・キャピタル有限会社

株式会社フレクシェ

公益財団法人毎日新聞東京社会事業団

マネックス証券株式会社

大阪府立三国丘高等学校

株式会社ミリオンインターナショナル

学校法人武蔵野学園

株式会社モンベル

UBS 証券株式会社

リコー社会貢献クラブ・FreeWill（株式会社リコー）

立教新座中学校・高等学校

有限会社レオン・インターナショナル

六花亭製菓株式会社

Grateful Crane Ensemble

International Medical Corps

Mercy Relief Limited

（敬称略、五十音順）

お詫び：例年、個人の皆さまにつきましても掲載のご承諾を頂戴した方はご紹介させていただいておりましたが、本年度は新型コロナウイルスの感染予防・拡大防止のため東京事務局職員の在宅勤務を導入した影響で、郵送でのお伺いに十分な時間を確保することが難しかったために誠に恐縮ですが法人のみのご紹介とさせていただきます。個人の皆さまからも非常に多くのご支援をお寄せいただいております。改めて衷心より御礼申し上げます。

ご支援の方法

寄付をする

クレジットカード コンビニ払い

AAR のホームページより
簡単にお手続きいただけます。



郵便振込

口座番号：00110-6-96509

加入者名：難民を助ける会

銀行振込

三井住友銀行 目黒支店（普）1215794 難民を助ける会

三菱 UFJ 銀行 目黒支店（普）4520323 難民を助ける会

みずほ銀行 目黒支店（普）1110211 難民を助ける会

銀行からのお振り込みは、こちらでお振り込み人名を特定できません。
お手数ですが電話（03-5423-4511）またはメール（info@aarjapan.gr.jp）
にてご連絡ください。

寄付額の最大約 5 割が戻ってきます。

AAR は東京都から認定を受けているため、ご寄付は確定
申告することで寄付金控除の対象となります。

マンスリーサポーターになる（継続的なご寄付）

毎月定額を継続的にご寄付いただくことで、AAR とともに
難民の方々に「支え続ける」ことができるしくみです。
お申し込みはホームページから、
または申込書をご請求ください。

▶詳しくは



遺贈・相続財産から寄付をする

ご自身の財産や相続された財産の一部をご寄付いただく
ことができます。お香典返しに AAR のチャリティグッズ
をご利用いただくことも可能です。

▶詳しくは



3,000 円で

5 人の子どもが 1 ヶ月、子どもの
ための施設に通い、自分の身を守る
方法を学んだり、心理的サポート
を得ることができます。



5,000 円で

南スーダンから逃れてきた難民
の子どもたち 78 人に、鉛筆や
学習ノートを配付できます。



10,000 円で

シリア国内で避難している 2 世帯
（1～5 人家族）に、5 日分の食糧
を届けることができます。

チャリティグッズを買う

地雷廃絶キャンペーン絵本『地雷ではなく花を
ください』シリーズや、絵本の主人公・サニー
ちゃんのさまざまなグッズを販売しています。
収益が AAR の支援活動に役立てられます。



▶詳しくは



家庭にあるものを寄付する

未使用切手や書き損じハガキ、未使用テレホンカード、
商品券、本、DVD、洋服など、ご家庭に眠っているもの
が支援活動に役立ちます。

▶詳しくは



サニーちゃん・ライフマスターカードを利用する

サニーちゃん・ライフマスターカードにご入会いただくと、
カードの利用代金の 0.3% が、ライフカード株式会
社より AAR に寄付されます。ご利用者さまのご負担は
ありません。

マイレージやポイントを寄付する

デルタ航空の「スカイウィッシュ・チャリティ・プロ
グラム」を通じて寄付されたマイレージは AAR 職員が
活動地などに渡航する際、Yahoo! ネット募金を通じた
T ポイントは AAR の支援活動に活用されます。

▶詳しくは





特定非営利活動法人 難民を助ける会

〒141-0021 東京都品川区上大崎 2-12-2 ミズホビル 7F

Tel.03-5423-4511 Fax.03-5423-4450

Email.info@aarjapan.gr.jp

www.aarjapan.gr.jp



@aarjapan



@aarjapan



@aar_japan

2020 年 8 月発行